2014年度 情報学部・情報学研究科の就職・進学状況

Career choices of new graduates

情報学部キャリア支援室　塩見 彰睦

2014 年度はアベノミクスや消費税増税等の経済に与える影響が多い年でしたが、企業の採用活動は例年よりも活発になっており、今年度も高い就職内定率を維持することができました。2015 年 2 月 28 日現在で、表のように学部 95.6%、研究科 93.9% の内定率となっており、昨年度を少し上回っています。未内定の学生にも３月下旬の卒業・修了まで就職活動の支援を行っております。

進学率は情報科学科 50.0%、情報社会学科 10.6% と両学科とも昨年と比較して同程度の進学率を維持しております。

学科・研究科		卒業予定者数	就職希望者数	内定者数	大学院進学者数	内定率	進学率
情報学部	情報科学科	98	46	43	49	93.5%	50.0%
	情報社会学科	104	89	86	11	96.7%	10.6%
	計	202	135	129	60	95.6%	29.7%
情報学研究科		58	49	46	3	93.9%	5.2%

情報科学科・情報社会学科の主な就職先（含 大学院）

情報科学科	情報社会学科
アイシン・エィ・ダブリュ	(独)統計センター
ＮＥＣ	静岡県庁
ＮＴＴドコモ	静岡市役所
ＮＴＴデータ	浜松市役所
オービック	アサツーディ・ケイ
オムロン	ＳＣＳＫ
京セラ	ＮＴＴ西日本
ＫＤＤＩ	遠州鉄道
ＪＲ東海	岡崎信用金庫
スズキ	静岡新聞社
ソフトバンク	清水銀行
大日本印刷	シャチハタ
デンソー	鈴与
東芝	中部ガス
東芝ソリューション	トッパン・フォームズ
豊田自動織機製作所	トヨタ自動車
日本銀行	日本医科大学
日立製作所	浜松ホトニクス
富士通	三井住友銀行
三菱電機　等	ヤマハ　等

近年の学部・研究科卒業生の主な就職先は左記の通りです。情報科学科では、大手情報通信産業や製造業が多く、情報社会学科では、公務員、金融保険業、情報通信業などが多くなっています。

情報学部では、３年次でのインターンシップや就活ガイダンス等に加え、学生との綿密な面接指導を行って、学生が希望の職につけるよう支援をしています。写真は、2014 年 10 月に行われた情報学部主催の就活応援セミナーの様子です。面接に臨む際の服装やメーク・髪型・身だしなみ等外部の方を招いて指導していただくセミナーには多くの学生が参加してくれました。

身だしなみ講座（2014/10/16）

学生表彰

学長表彰　渡邉なつき
学部長表彰　兼田千雅
研究科長表彰　藤田真浩
学位記受領代表
学　部　（正）依田葉月（副）神谷紗也加
大学院　（正）磯部拓海（副）池谷勇樹
浜松工業会学習奨励賞
情報科学科　星野恵、鈴木航太
情報社会学科　原田佳奈、志田幾美

平成 27(2015)年度　行事予定表

2015年		11月7･8日	静大祭･テクノフェスタ(浜松)
4月4日	入学式･保護者懇談会(新入生の保護者対象)	11月7日	保護者懇談会･個別面談
4月6日	ガイダンス(1･4年)	11月14･15日	静大祭(静岡)
4月7日	ガイダンス(2･3年)	12月中旬	シドニー大学短期集中コース(～1月上旬)
4月9日	前期授業開始	12月22日	集中講義(～ 12月25日)
4月18･19日	新歓合宿(休暇村伊良湖)	12月26日	冬季休業(～ 1月3日)
7月30日	前期試験期間(～ 8月5日)	2016年	
7月30日	TOEIC 試験(1年生)	1月4日	授業再開
8月6日	夏季休業(～ 9月15日)	2月4日	後期試験期間(～ 2月10日)
8月7日	夏季オープンキャンパス	3月21日	学位授与式(静岡)
9月16日	集中講義(～ 9月30日)	3月24日	学位授与式･卒業祝賀会(浜松)
10月1日	後期授業開始	3月25日	春季休業(～ 3月31日)

お問い合わせ　〒432-8011 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
TEL:053-478-1510・1511　FAX:053-478-1513
学務窓口 pr-gakumu@ml.inf.shizuoka.ac.jp　広報窓口 prcom@ml.inf.shizuoka.ac.jp

情報学部のウェブページをご覧ください。
情報学部では、保護者・受験生・社会人・一般・企業の皆様向けに学部のウェブページを公開しています。最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。
http://www.inf.shizuoka.ac.jp/

Joy風
Faculty of Informatics
Shizuoka University Newsletter
Vol.14, April 2015
http://www.inf.shizuoka.ac.jp
April2015
vol.14
静岡大学情報学部

行事報告

Report of events

静大祭　大学祭の楽しみ方

情報社会学科　江崎 みのり

静岡大学には、静岡キャンパスと浜松キャンパスがあることはみなさんご存知だと思います。静岡大学の大学祭――通称静大祭はその両方で別々の日程で行われています。浜松キャンパスの静大祭は浜松静大祭実行委員会という学生の委員会が中心となって企画・運営し、年に一度学生がハメを外せる楽しい2日間です。私はそんな静大祭実行委員会に参加しています。

静大祭は模擬店やステージでの学生参加型の企画などをメインに、アーティストさんをお呼びしたり（2014 年はお笑い芸人のしずるさんとプラスマイナスさん、女優の入来茉里さん）、最終日の夜には花火を上げたりしています。他にも地域のお子さんが楽しんで遊べるおもちゃを実行委員で自作して、学生だけでなく地域の人にもお礼の意味を込めて楽しんでいただいています。

このように表はきらびやかですが、裏では結構てんてこ舞いで、実行委員になると静大祭を普通の人と同じようには楽しめません。人員が足りない！ここにあるはずのあれがない！等、大騒ぎをしていることもしばしばあります。しかし、スタッフジャンパーを身に纏い、自分たちの手で作り上げた静大祭を裏の目線から見ることが出来ます。私は来場されたおばあさんに「毎年楽しみにしているよ」と言われたことがとても嬉しく、自分たちが活動した約１年間は無駄ではなかったのだ、と実感することができました。また次の静大祭も「楽しかったよ」と言っていただけるようなものを実行委員全員で作り上げたいです。

静大祭（2014/11/8）

ホームカミングデー　企画運営の苦労と喜び

情報学研究科　修士課程　山本 頼弥

今年度も、静大祭 in 浜松キャンパスに合わせ、情報学部ホームカミングデーが行われました。私は、GSO(大学院生組織) の代表として同窓会ワーキンググループの先生方とホームカミングデーを企画・運営しました。

企画を通じて大変苦労したことは２点あります。例年、ホームカミングデーの料理などは生協に依頼しているのですが、伝達の不備が生じ生協への依頼がうまくいきませんでした。そのため、お酒や料理を全て同窓会ワーキンググループの先生方や我々で準備しなければなりませんでした。また、参加者を集めるにあたり Facebook のイベントページも設置しましたが、なかなか返信がもらえず参加者を集めるのに大変苦労しました。

当日は、同窓生・教員・来賓を合わせ、100 人を超える人たちの参加がありました。参加者で溢れかえった部屋を見た時、苦労をしてやってよかったなと心の底から感じました。また、旧友との再会に加え、普段であればお話することができない伊東学長や工業会の役員といった方々とも話をすることができ、とても貴重な体験をすることができました。

主要な仕事は新しく修士課程の２年生になる学生たちにバトンパスしましたが、今後も情報学部ホームカミングデーを盛り上げていくために自分ができることをやっていきたいと思います。

来年度も同窓生のみなさまの参加を心から楽しみにしております。

ホームカミングデー（2014/11/8）

シドニー大学短期留学　短期留学を通じて

情報科学科　時久 直也

私は冬休みの間にシドニー大学短期集中コースに参加しました。３週間ほどの短い留学期間でしたが、普段の大学生活だけでは得ることのできない経験ができたと感じています。私は英語（特に英会話）には自信が無く、英語の講義でも友人に助けてもらうことが多かったと思います。そんな私が留学を決意した理由は、海外に行くことで英語を使わざるを得ない環境に自分を置いてみたかったことと、自分の学んでいる分野以外のことも学びたいと考えたからでした。

基本的には午前中はオーストラリアについての授業をうけ、午後は大学の外に出て実際に文化に触れたり、歴史についての話を聞いたりします。授業はもちろん英語で行われます。しかし、単語の言い換えやゆっくりとした発音などをしていただいたため授業についていくことが出来ました。大学外での活動では、現地の方々と話す機会が多くありました。お店の注文などの簡単な会話では意外に話せることに驚きましたが、少し長い文では聞き取れないことが多々あり、もっと語学力を高めたいと強く感じました。この経験から、もっと語学力を高めて機会があればより長期の留学に参加したいと考えています。

語学以外にも、オーストラリアについての社会学を通じて、少なからず今までとは違った視野を得ることが出来たと感じています。情報科学科では学ぶ分野の関係上、必修の講義の割合が多いため、留学は普段とは違ったことを学ぶ良い機会でした。情報社会学科の方もより広い視野を得ることができるチャンスだと思います。語学の得意不得意にかかわらず、みなさんも大学生活のうちに海外留学を経験してみてはいかがでしょうか。

ボークルーズハウスにて（2015/1/2）

大学生活の思い出

University memories

刺激的な４年間

情報科学科　CS プログラム　兼田 千雅（本学大学院進学）

私の４年間の大学生活は、私生活を含め非常に充実したものでありました。特に私の大学生活に最も影響を与えたことは、サイクリング部に入部したことだと思います。サイクリング部はみんなで自転車に乗って様々な場所に行く部活で、静岡キャンパス・浜松キャンパス合わせて 100 人以上の部員が所属しています。私はサイクリング部で部員たちと日本全国を走り回りましたが、どの場所でも実際に行くことでしか得られない多くの経験を得ることが出来ました。サイクリング部で得た刺激的な経験は、それまで内向的だった性格が外交的になるほどでありました。多くの人と様々な場所で色々な経験ができるサイクリング部は、まさに大学生しかできない部活であり、自身の視野を広げることに繋がりました。その結果、知らないことでも興味があれば積極的にチャレンジしようという気持ちになれました。

サイクリング部で得た前向きな気持ちから現在は、以前から興味のあったセンサネットワークやデータマイニングに関する研究を活発に行っている峰野研究室に所属しています。研究室では、農家に頼らずに高品質な作物を自動的に栽培するようなシステムの開発を行っています。農家は自身の経験や勘を頼りに当日の作物の状態や環境から適切な制御のタイミングや量を決定しており、特にこの農家の判断を高精度かつ高速に再現する手法について研究を行っています。この研究は多くの対外発表にも繋がり、サイクリング部とは異なった刺激的な経験を研究室に入ってからも得ることができました。

４年間に得た経験を改めて振り返ると、どれも大学生でしか経験できないものが多かったものと感じます。私の場合は特にサイクリング部と研究生活によって、今までの自分の視野がいかに狭いものであったかを痛感しました。今後は静岡大学大学院に進学し引き続き研究を行っていきますが、大学生活でしか経験できないことを今まで以上に多く得ることができるよう、限られた２年間を有意義に使っていきたいです。

研究室とビジコン

情報社会学科　IS プログラム　吉川 亮子（IT 関連企業就職）

研究室配属は、大学生活のなかの重要なターニングポイントです。３年の後期、私は迷った末に湯浦研究室を選びました。今振り返ってみると、この選択をして本当に良かったと思います。湯浦研究室では、たくさんのイベントがあります。その中でも大学生活で一番打ち込んだことであり、最も思い出深いものが、ビジネスコンテストです。湯浦研主催のこのコンテストは、学生がチームを組み社会人審査員に対し新たなビジネスプランを提案するというものです。授業とは違い、やるべきことが提示されるわけではありません。単位が出るわけでもありません。自分たちで何をしたらより良くなるかを考え、行動し、プランを深めていく必要があります。私たちのチームは、優勝という一つの目標に向かい、企業訪問や電話でのインタビューなど積極的に取り組みました。また、今までの授業で得た会計の知識やマーケティング手法を利用し、プランの精度を高めていきました。社会人審査員の厳しいコメントに、挫けそうになることもありました。そんなとき、支えてくれたのがチームメンバーである湯浦研の同期です。所属前は話したこともない２人でしたが、このコンテストを通じ、自然と仲良くなりました。最終まで失速することなく頑張れたのは、このメンバーだったからだと思います。

最終発表では完成度の高さやチームワークの良さを評価され、優勝することができました。優勝ももちろん嬉しかったのですが、それ以上にこのチームで出来る全てをやり遂げたという達成感の方が大きかったです。私はこの体験からビジネスコンテストが好きになり、４年生では参加者ではなく主催者としてビジネスコンテストに携わりました。主催者はやるべきことが多くあったのですが、湯浦研の方々が優しく手助けをしてくれたおかげで、無事コンテストを開催することができました。こんな刺激的な体験ができたのも、湯浦研に所属していたからこそだと思います。湯浦研で学んだことを活かし、これからの社会人生活を過ごしたいです。

夢が３回変わったけど、大丈夫でした

情報社会学科　ID プログラム　丸山 翼（広告関連企業就職）

１年のときはテレビやラジオに関わりたくてしょうがなく、２年のときは外国人とおしゃべりがしたくてしょうがなく、３年から４年は言葉について考えたくてしょうがない状態で、今も続いています。熱しやすく冷めやすいのが私の欠点なのですが、情報学部の４年間という環境は、いつでも私に挑戦する機会を与えてくれました。

情報学部に入学した学生が、他学部、他大学の友人などから必ず言われる言葉があります。それは「情報学部ってことはパソコン詳しいんだね」です。情報学部には、この質問に自信をもって頷けるタイプの人はもちろん、笑顔で否定するしかないタイプの人の両方がいます。私は４年間をどのように振り返っても後者としか言えません。それでも、大丈夫でした。情報社会学科の４年間は選択科目が多く、ある程度自由に受講スケジュールを組み立てることが可能です。１、２年ではマスコミュニケーションに関わる講義や、語学の講義を主に履修しようと意識したことを覚えています。３年からは言葉に対する興味が強くなって言語学の研究室に入り、言語コミュニケーションについて学びました。「情報＝IT」という固定のイメージはおそらく２年生になる頃には消えます。情報学は非常に学際性が高く、なんでも研究に繋げられる学問だということを、経済、法律、メディア、言葉、文化、心理学、哲学など様々な分野の講義を受ける度に強く認識しました。

最終的に「情報＝“　”」をどのように解釈するかは本当に自由で、自分の学びたい分野が大きく変わってもそれに対応できてしまうほど先生方の専門分野は幅広いです。知りたいこと、やりたいことが何回変わっても大丈夫だと思います。「情報」と聞いたときにイメージするものは、高校生当時の私もやはり「IT」でした。しかし４年間で辿り着いたのは「情報＝コミュニケーション」という解釈でした。次の春から、私は広告会社で働きます。広告がもたらす人と人のコミュニケーションについて考える仕事です。入学当初は全く意識していなかった道ですが、満足しています。この４年間、興味の向くままに挑戦を繰り返せたことがとても貴重な経験でした。

国際会議で発表して

情報学研究科 修士課程 大森 雅己（IT 関連企業就職）

修士の２年間を振り返ると、国際会議に通り海外で発表したことが一番心に残っています。私は横山研究室に所属していて、Flickr という写真共有サイトの写真を使った研究をしていました。もう少し詳しく説明しますと、Flickr の写真には撮影位置（緯度・経度）やユーザが付けた写真の説明が付けられています。この写真の説明に着目して、ビーチと説明された写真は海岸近くで撮影されただろう、それならば大量に写真を集めれば写真の撮影位置から全世界の海岸線を描けるのでは？という仮説を立てて、２億枚の写真を集めてその中からビーチと説明された数十万枚の写真を使って海岸線を描く手法を提案しました。

修士１年の時に、この分野のトップの国際会議ということで先生に薦められて、この研究の１つ前の段階で国際会議に投稿しました。しかし、残念ながら採択されませんでした。通りはしなかったのですが、多くのアドバイスは頂けたので、それを参考にして、先生や研究室の人からもアドバイスを貰いながら研究を進めて行きました。そして、修士２年の時に同じ国際会議に投稿して採択されました。

私は人前での発表は苦手で、さらに得意でない英語での発表・質疑なので、とても緊張していて、良い発表とは言えなかったと思います。しかし、発表を聞きに来てくれた人は、私の拙い英語を聞き取ってくれ、また、わからなかった言葉は他の単語で言い換えてくれるなど、とても優しく対応してくれて良い意見をもらうことができました。また、同じ分野の多くの研究に触れることができて良い機会となりました。

私はこれまで海外に行ったことはなく、国際会議での発表が初めて海外に行く機会だったので、研究発表だけでなく海外の文化に触れることができ、とても良い経験ができました。研究で海外の写真はよく目にするのですが、やはり自分の目で見て体験することとは違うと実感しました。大学院では、これらのとても貴重な経験ができ、他にも研究室メンバーと楽しく過ごすことができて充実した２年間だったと思います。

新任教員の抱負

Aspirations of newly appointed faculty

人間のように言葉を操る人工知能を目指して

情報社会学科　准教授　狩野 芳伸

10 月に着任しました狩野芳伸です。専門分野は計算機で人間の言葉を扱う自然言語処理です。人間の知能、思考、意識といった高次の機能は、自然言語抜きには想像しがたく、言語は中核的な要素といえます。こうした頭脳にあたる機能を計算機上の人工知能として実現することが、私の研究の最終目標です。

研究の第一の柱は、人間とより自然な会話のできるシステムの構築です。これはまだ世界の誰も実現できていない挑戦的な目標です。そのためにはまず、人間自身の言語処理の仕組みを知り、計算機で扱えるよう表現することが必要だと考えています。さっきの会話はなぜ発話されたか、どうすれば自動的に再現できるか？と考えるのは大変奥深く、楽しいものです。

会話システムに限らず、自然言語処理のソフトウェア構築には多様な専門技術の組み合わせが必要になります。これまで、自然言語処理の多様な技術をより多くの人が利用できるように、作業の自動化を支援するプラットフォームとツールキットの構築を行い、応用として大学入試の自動解答、電子カルテの処理、テキストマイニングなどに取り組んできました。また、ベンチャー企業設立支援から大手企業との共同研究まで、様々なテーマで産学連携を推進しています。こうした応用を第二の柱とし、二つを研究の両輪として今後も発展させていきます。

ソフトウェアが思った通りに動くのはとてもうれしいもので、ある種現代の魔法ともいえますが、必ずしも高度なプログラミングスキルが必要なわけではありません。教育を通じ、最先端の理論や技術とその使いこなし、テーマに関わらず共通する仕事の進め方を伝えていきたいと思います。研究室では楽しく・面白く・役に立つ研究生活が送れるよう、学生の皆さんと一緒に考え、挑戦していきたいと考えています。（研究室ウェブページ：http://kanolab.net/）

経済社会をシミュレーションする

情報社会学科　准教授　李 皓

61 年振りの記録的な大雪の中　元旦の金閣寺にて

3月に情報社会学科に着任した李皓（リ ハウ）です。生まれも育ちも台湾台北ですが、来日してから今年で 18 年目になります。あと4年経ちますと、日本にいる期間が台湾にいた期間を上回ります。経歴は少し変わっていまして、高校は理系であり、大学は情報学も含む数学の応用を勉強する学部に進学しましたが、経済社会への関心が自分の中で高まり、文系への転向を考え、数学の応用が出来る経済学部へ転入しました。しかしながら、院に入ってからはコンピュータシミュレーションという理工系の手法に出会い、結局は一巡して情報学に戻りました。

専門はエージェントベースシミュレーションという分野で、情報工学の手法を用いて経済社会問題解決の糸口を探っています。これは経済社会の事象をモデル化し、人工知能などの意思決定能力を持つエージェントを用いて、ボトムアップで経済・社会システムを構築・研究する手法です。今までの研究テーマはハイテク産業の技術革新、経営・会計システム、人工株式市場などですが、最近の関心はコンテンツのプラットフォームビジネス、そして少子化の社会的構造とその解決に繋がる政策になります。

社会の情報化は、多くの問題を解決する可能性をもたらしますが、同時に新たな問題を多く生み出しています。社会の転換期である今は非常に面白い時代であり、機会も溢れています。学生の皆さんが世の中の仕組みを理解し、経済社会を良い方向に変革させる力を身に付けるように、全力でサポートしていきたいと思います。

私が自分の人生目標としているのは、経済社会の全体最適に少しでも近づけることです。そのために、様々な経済社会問題の解決を目指す研究や、地域社会に求められる人材を育成するための教育に、尽力したいと考えています